

第8号(98年1月30日)  
『流通VANとインターネット』

全国地域VAN事業者協議会 代表理事  
(大阪商工会議所経営情報センター 所長)  
福島 健彦

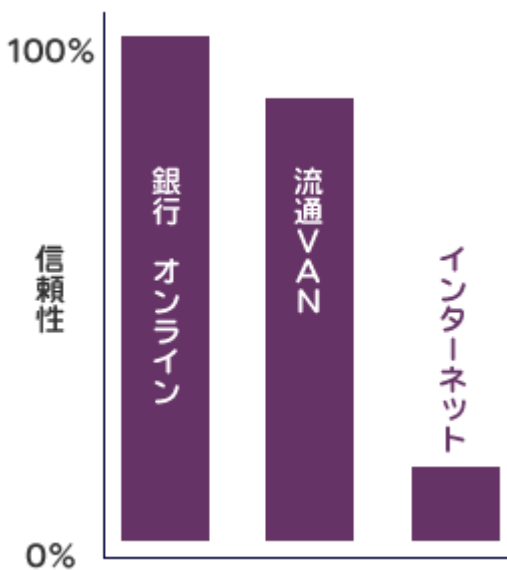
●インターネットの限界

インターネットの利用が世界的な潮流となっている。平成9年度版「通信白書」によれば、わが国のインターネットの利用者数は700万人から1千万人に達しているという。

インターネットの普及に従い、世の中の情報通信はすべて、インターネットに取って代わられると信じている人が増加している。

10年先のネットワーク事情について言及することは不可能だが、これから5年先までならば予測可能である。結論から先に言えば、そのようなことにはならないことは確実である。

その理由の第一は、ネットワークの信頼性に関わるものである。産業や生活分野に限ってネットワークの信頼性を大づかみに考えると、以下のチャートを描くことができる



ネットワークの信頼性を、VANの運用を基準に考えると、その要素となるものは、

- (1) ネットワークの切断の頻度
- (2) 情報伝達時間の保証の範囲
- (3) 情報伝達速度の保証の程度
- (4) 情報伝達の正確性
- (5) セキュリティーの確保の程度

などである。

言うまでもなく、銀行オンラインはリアルタイム、またはそれに近い時間で、データが伝達され、同時に限りなく高い正確性が要求される。

また、通信系のトラブルによる通信が不可能になってはならないことは、数年に一度程度マスコミで報じられる関連するニュースによっても社会的に認知されたことである。

流通VANにおいても、同様に高い信頼性が要求されているが、処理料との兼ね合いで、それよりは若干低い信頼性で運用されているのが実情である。

インターネットの通信ネットワークとしての信頼性については、現状ではこのような高い水準は確保されていない。

### ●ネットワーク監視に優れる地域流通VAN

第2は、ネットワークシステムの介入の可否である。

地域流通VANにおいては、利用者の多くが、情報システム利用に関して専門の担当者を置いていない小規模の事業者である。このため、大規模な企業の利用者を相手にする大規模なVAN事業に比べ、利用者に対するきめ細やかなサービスを要求される。

1. 小売店からの発注データの集信状況についての卸売業からの問い合わせ、
2. 集信データを処理中に何らかの事情で壊してしまった場合の再送要求、
3. 発注端末機のバッテリー切れやコードの接続ミスなど単純ミスについての問い合わせ、
4. 通信異常の発生についての細かい対応と、回復処理の案内、

などなど事例として取り上げても100を下らないと思われる。

地域VANでは、これらの事例に対応するために、ネットワークシステムの運用状況の監視だけではなく、取り扱いデータの件数や、データの内容の確認までも可能とするネットワークの監視システムを準備している。

この、きめ細かいネットワーク監視による、利用者への対応が、主として中小規模である地域の流通業のネットワークセンターとしての地域流通VANの性格付けを明確にしているのでもある。

インターネットはネットワークセンターが、ネットワーク利用に介入しないことが大きな特長である。地域流通VANの運用実態と大きく隔たりを持つことは明確である。

### ●迫られるVANとインターネットの融合

しかし、インターネットと地域流通VANは将来とも、関係なく展開されるとするものではない。

第1は、地域VANのサービスに商品の画像のサービスが求められており、インターネットはその伝送手段として最も適したものであるからである。卸売業のリテールサポートの一環として、また、小売自身の業

務のため、商品の棚割りのためのサービスシステムが多数供給されている。このシステムを効率的に稼働するには、取扱商品個別の電子化された画像データが必要である。個別企業がこれを独自に作成することはきわめて困難であるため、ネットワークセンターのサービスメニューしなければならない時期が迫っている。

第2は、地域や商品別の売れ筋データなどをはじめとする、緊急性や正確性にさほど高い水準を要求されないデータの伝送手段として適していることである。

第3は、従来の通信手段に比べ、大量データの低コストでの伝送に適した機能を持つことである。

このような、従来型の通信手段と比較し、全く異なる特性を持ち、地域VANの今後のサービスの展開に要求される優れた面は、早期に地域流通VANに取り入れなければならない。そのため、近未来の地域VANは、従来型のネットワークとインターネットがそれぞれの特性を生かした形で融合したものとして、想定する必要がある。

もっとも、この数年の通信ネットワークの動きが、10数年前には殆ど予想さえできなかったことを考慮すれば、5年またはもう少しの時間で、従来型とインターネットが融合した新しい通信ネットワークのインフラストラクチャーが整備されるかもしれない。